

道徳

自分の生き方や在り方を見つめ、他と豊かにかかわれる子供の育成

～自分の道徳的価値の高まりを自覚し、生活の中に生かす道徳の時間の追究～

1 研究の経緯

自分の生き方や在り方を見つめ他と豊かにかかわる子供を育成するため下記の研究をしてきた。

＜1年次＞

副主題「子供が自ら道徳的価値を感じ取り、深め合うことができる道徳の時間の構想」

(1) 道徳的価値を子供の意識に根差して実感することができる道徳の時間の工夫

ア 他の教育活動に関連したり生活に密着したりして、道徳的価値について問題解決的に学んでいく授業

イ 道徳的価値(価値にかかわる事象や心なども含む)の意味を問うことから展開していく授業

ウ 道徳的感性をゆさぶったり生命や痛みを実感させたりする展開の授業

【生き方を学ぶ学習の中で】

(2) 感じ取った道徳的価値を友達と深め合うことができる学習活動や支援の工夫

ア 一人一人の子供のよさを意図的にかかわり合わせる学習活動や支援の工夫

イ 対人的なかかわりを重視した学習活動や支援の工夫

＜2年次＞

副主題「自分の道徳的価値のよさを感じ、生き方や在り方を共に考える道徳の時間の展開」

(1) 自分の道徳的価値のよさを感じることができる道徳の時間の展開の工夫

ア 他教育活動との関連を図る展開

イ 道徳的価値のよさを主体的に表現する展開

(2) 生き方や在り方を共に考えることができる学習活動や支援の工夫

ア 自分の道徳的価値のよさを生かすことを共に考える学習活動

イ 生き方や在り方を共に考えることができる支援

1年次の研究により、子供は道徳的価値に対する理解を深め、そのよさを感じ取り、深めることができるようになった。さらに2年次には、自分の道徳的価値のよさを感じ、自分の生き方や在り方をじっくり見つめることができるようになった。

2 研究の方向

2年間の研究により、子供達は、道徳的価値のよさについて理解を深め、それが自分の中にあることを感じ取ることができるようになってきた。

そこで、本年度は自信を持って道徳的实践ができるよう、まず、自分の道徳的価値の高まりを自覚できるような道徳の時間について考えた。ここでいう「道徳的価値の高まり」とは、「よりよい道徳的価値を追究する中で、道徳的価値についての自分なりの課題が明らかになったり、実践への手立てがより具体的になったりすること」である。道徳的価値の高まりを自覚した子供達は、自分の生き方や在り方を見つめ、生活の中での道徳的实践の場が増えてくるであろう。

また、より具体的な実践につながるよう、学んだ道徳的価値を生活の中に生かすための手立てを考えた。ここでいう「生活の中に生かす」とは、「高まった道徳的価値をもとに、よりよい行動をしたり、心構えを持って事象に接したりすること」である。子供達は、学んだ道徳的価値を生活の中に生かすことで、「友達や家族、地域の人々、さらに自然や崇高なもの及び集団や社会など」の他と豊かにかかわりながら、主体的に道徳的实践をすることができるようになるだろう。

これらのことから3年次の副主題を「自分の道徳的価値の高まりを自覚し、生活の中に生かす道徳の時間の追究」とした。

3 研究の内容

本年度は、(1)「生活との関連を図りながら、自分の道徳的価値の変容を意識する展開」と(2)「自らつくった学びの中で道徳的価値を追究し、自分を振り返るための学習活動や支援の工夫」(3)「生活の中で他と豊かにかかわるための学習活動や支援の工夫」について研究を進めた。

まず、子供が自分の道徳的価値の高まりを自覚し、生活の中に生かすための展開を中心に(1)を構

想し、(2)では、(1)の展開が効果的になるよう、子供達が主体的に取り組むための学習活動や支援の工夫について考えていく。さらに、(3)では、他とのかかわりについて考えることにより、より豊かな道徳的实践ができるようにしていく。(1)(2)(3)の三つの内容を相互に関連させ合いながら、授業を構想し、展開することで研究主題に迫ることにした。

(1) 生活との関連を図りながら、自分の道徳的価値の変容を意識する展開

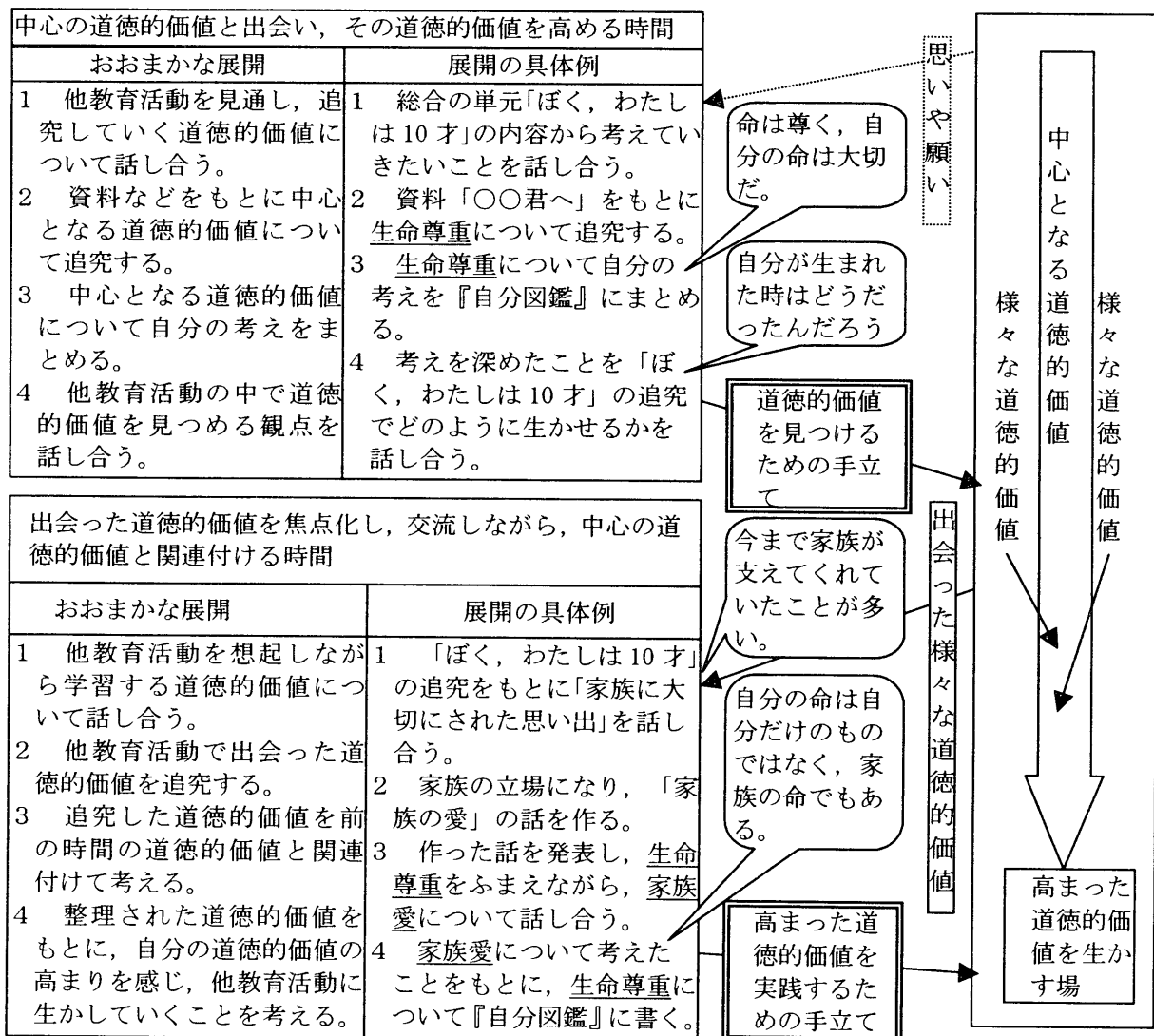
ア 他教育活動で出会う様々な道徳的価値を生かし、それらを関連付けて考えること

子供は、学校生活の中で様々な道徳的価値と出会う機会があり、それらを道徳の時間にどう生かすかは大きな課題である。そこで、本年度は、他教育活動の中で出会う様々な道徳的価値を道徳の時間に取り上げ、子供がそれらの関連を考えられるようにする。中心となる道徳的価値を軸に、複数の道徳的価値を関連付けて考えられるようになった子供は、その変容から道徳的価値の高まりを感じ、様々な道徳的価値が存在する生活の中にそれらを生かしていくことができる。

また、それらの道徳的価値の追究の過程を単元としてとらえ、単元の終わりには、高まった道徳的価値を生かす場を他教育活動の中に位置付けることにより、生活に生かしていこうとする態度を育てていく。単元全体の構想と授業の展開を示すと以下ようになる。

<道徳の時間>

<他教育活動>



イ 生活に密接した表現活動を取り入れ、その変容から実践を考えること

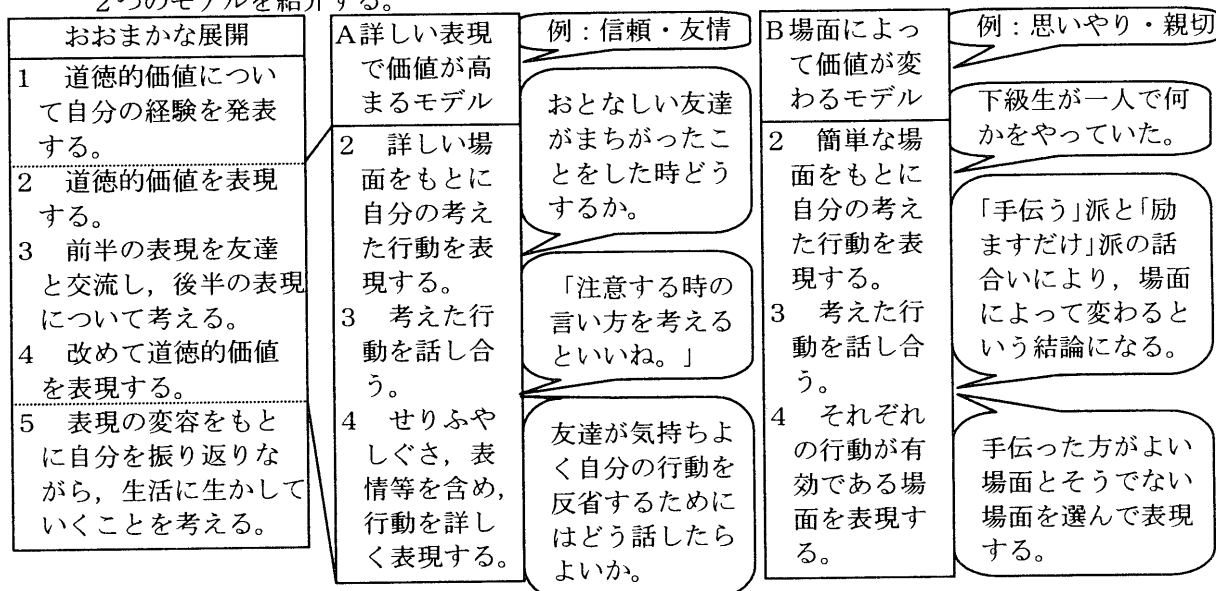
道徳的価値を表現する活動では、その表現の中に子供の道徳的価値についての見方や考え方が表れる。本年度は、その表現の変容を意識することができるような展開を考え、その中で自分の道徳的価値の変容も意識できるようにする。

そのために、表現する活動を道徳の時間に2回位置付け、前半の道徳的価値の表現について

友達と話し合うなどの交流する活動を取り入れ、後半の表現活動において、子供の表現が整理されたり深まったりと変容していくようにする。また、表現する内容は行動や場面を中心にし、子供が道徳的価値を考える際に必要な場面の状況や行動の様子を思い思いに表現することにより、資料を超えた現実の生活に密接した道徳的価値を考えることができるようにする。

このように生活に密接した道徳的価値を表現する活動の中で、その表現の変容を感じながら自分の道徳的価値を高めた子供は、自信を持って道徳的実践をしていけるであろうと考える。

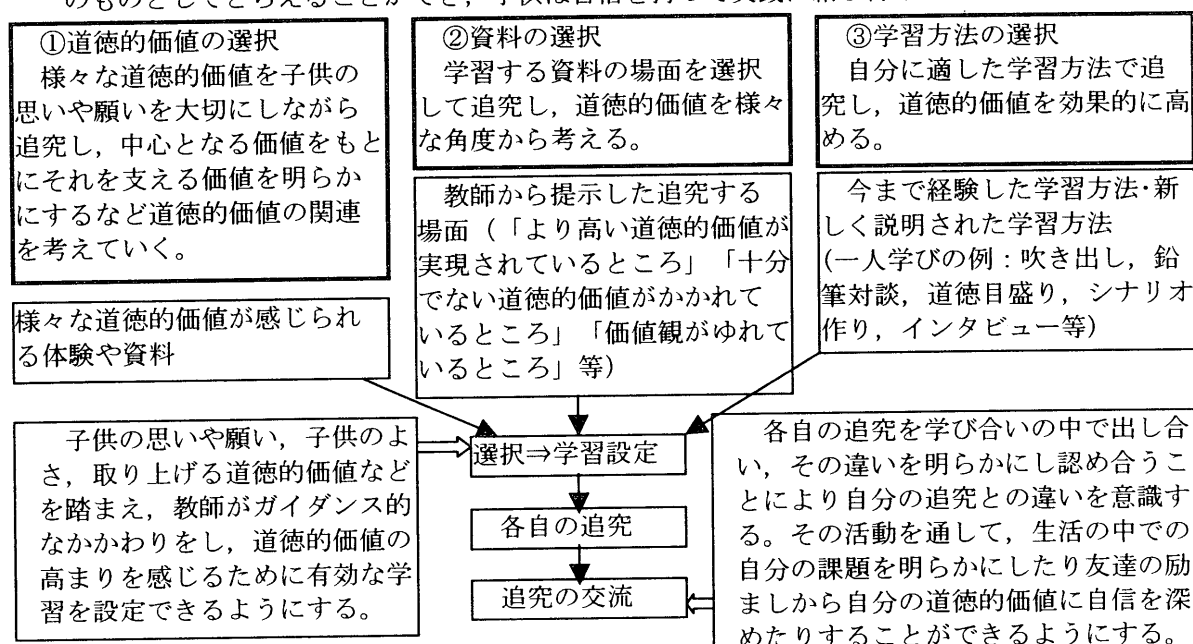
追究する道徳的価値により、表現する活動の展開が変わるので、おおまかな展開をもとに、2つのモデルを紹介する。



(2) 自らつくった学びの中で道徳的価値を追究し、自分を振り返るための学習活動や支援の工夫

ア 子供の思いや願いを生かしながら学習を設定し、主体的に道徳的価値を追究すること

子供たちは、一つの体験をしても感じたり見つけたりする道徳的価値は様々であり、一つの資料を示しても追究したい場面は異なる。それは、子供一人一人の事象に対する感じ方や考え方には違いがあるからである。そのため、子供が自ら道徳的価値を追究していくためには、それぞれの思いや願いに沿った学習を展開していくことが大切になる。そこで、本年度は、道徳的価値、資料、学習方法を子供達が選択し、主体的に道徳的価値を追究していけるような学習を設定できるようにした。自分の思いや願いに沿った学びの中で、高めた道徳的価値は、自分のものとしてとらえることができ、子供は自信を持って実践に結び付けていくと考える。



イ 自己の振り返りにより、自分の変容と共に課題やめあてを明らかにすること

子供が学習を通してどう変わったのか、どう追究したのかなどを自ら振り返る活動を取り入れ、その変容に自信を持ったり、課題やめあてを明らかにしたりしながら、道徳的価値を自覚できるようにする。そういった振り返りを重ねることにより、子供は自らの生活や行動を見つめ、よりよく生きていこうという態度を育むことができる。

そのために、以下のような学習活動を取り入れていく。

① 以前の道徳の時間との関連を図り、長いスパンでの道徳的価値の変容を感じる

以前の道徳の時間に書いた自己の振り返りと本時を比べながら、自分の変容を感じ、道徳的価値の高まりを自覚できるようにしていく。そのために、『自分図鑑』や「心の地図」を用いて、累積的に自分の心の変化を記録していくようにする。

② 時間の終末にこれからの自分を観点に自分の道徳的価値を見つめる

単位時間の学習での自分の道徳的価値の自覚には、生活の中での自分を見つめることが不可欠である。不十分だった自己を自覚するのではなく、これからよりよく生きていくためにどうするかというプラス面でのめあてを道徳的価値の高まりとして自覚したり、その後の実践を「心のノート」や『自分図鑑』などを活用しながら振り返ったりしていく。

③ 自分の学びを見直したり、振り返ったりする

(2)アとの関連で、自分が設定した学習自体を振り返り、自分に合った有効な学びをつくる力を育てていく。まず、学習前に、それまでの学習での自分の追究やその後の自分の実践などを思い返しながらか、自分で設定した学習が今の自分にとって有効かを見直し、より効果的な追究になるようにする。また、学習後には、自分が設定した学習全体を振り返り、自分がねらいとした有効な追究ができたかを評価し、次の学習の設定に生かしていく。

(3) 生活の中で他と豊かにかかわるための学習活動や支援の工夫

ア 自他の道徳的価値を認め援助し合うことを意識した活動の中で他とかかわる態度を育むこと

生活の中に道徳的価値を生かしていくとき、他 (学び合いカードの例)

とのかかわりが不可欠であり、他と豊かにかかわっていくことにより、道徳的価値の実践は可能になる場合が多い。そのために、道徳の時間に、友達やゲストティーチャーなどとの交流を取り入れ他と豊かにかかわるために大切である「認め援助し合う関係」を意識できるように支援していくことにより、他とかかわる意義を感じることができるようになり、他とかかわる態度を育んだりしていく。

例えば、相手のことを考えたあいさつやプリントの渡し方を習慣化するなどの他、学び合いの中で、お互いに援助したりされたりしながら課題を解決していこうという気持ちが持てるように、話したり聞いたりする時の観点などを明らかにした学び合いカードなどを活用していく。

- 相手がわかりやすいように話そう。
 - ・聞きやすい声や速さで
 - ・わかっているかを確かめながら
- 相手が自信を持って話せるように聞こう。
 - ・「うんうん」「なるほど」「そうか」
- 相手のよさをみとめ、質問してみよう。
 - ・「～というのはとてもよい考えですね。どうしてそう考えたのですか。」
- 自分がまよっているところを相談しよう。
 - ・「～についてまよっているのですが、よい考えはありませんか。」
- 相手にアドバイスをしあおう。
 - ・「～というふうにしたらもっとよくなると思います。」

イ 見通しを持ったり、生かしたりする活動を取り入れ、他とかかわる意義を考えること

生活への橋渡しとして、終末に他とのかかわりを見通したり、生活の中で他とかかわった経験を授業に生かしたりすることにより、生活との関連を図りながら、他とかかわる意義を考えることができるようにする。

<道徳の時間>

終末に、かかわる相手
やかかわり方を考える。

生活の中での
他とのかかわり

<道徳の時間>

考えの根拠や自分を見つめる際の経験として、
お互いに発表し、友達のかかわりのよさを効果的に
自分の実践に生かす。

4 研究の成果と今後の課題

本研究を通して、子供達は主体的に道徳的価値を追究し、自分の道徳的価値の高まりを自覚することができるようになった。また、道徳的価値を生活の中に生かそうとする中で、他と豊かにかかわろうという姿も見られるようになった。さらに道徳的実践が進んでできるよう研究を進めていきたい。